

Y・A BOOKS



～ 今年度入った本の中から ～

No.34 (2019.3)



◆碧と花電車の街

後悔のないように、やりたいことをやって生きるんだよ

麻宮ゆり子/著 双葉社 2018.4 テコ913.6-マミ 1111508831

昭和30年代の「ごった煮」の街、名古屋の大須。終戦直後に生まれ、長屋に母親と二人暮らしの碧〔みどり〕は、花電車に乗ることへの憧れと、映画監督になる夢を持っていて…。辛いことも多いけれど、周りの大人たちに見守られ、助け合いながらたくましく成長していく姿が、ノスタルジー溢れる当時の大須の街の姿とともに描かれます。

◆ある晴れた夏の朝

一冊の本には人を動かす力があり、人を変える力もある

小手鞠い/著 偕成社 2018.8 テコJ913-コテ 1111538581

夏休みに開催された、人種も考え方も異なる8人のアメリカの高校生による日本への原爆投下の是非を問う公開討論会。日系人のメイは否定派として参加することになって…。それぞれの出自を背景に、真珠湾攻撃、南京虐殺やホロコースト、人種差別などにも話は広がり、戦争と平和について多面的・多角的に考えさせられます。



※討論の中でも言及された戦時中の日系アメリカ人の物語として、『マレスケの虹』（森川成美/作 小峰書店 2018.10）もぜひ読んでみてください。（テコJ913-モリ 1111576439）

◆かならずお返事書くからね

テコJ289-アリ 1111498815

誰かの人生を変える力

ケイトリン・アリフィレンカ, マーティン・ギャンダ/著 リズ・ウェルチ/編 大浦千鶴子/訳 PHP 研究所 2018.3

学校の授業の一環でジンバブエの14歳の少年・マーティンと文通することになったアメリカの12歳の少女・ケイトリン。楽しみにしていた手紙が途絶えたことで、政情が不安定な国の中でも特に貧困な地に暮らすマーティンの実情を初めて知って…。未来を諦めずに努力するマーティンと、彼を懸命に支援するケイトリンやその家族の実話です。



◆ひゃっか！ 全国高校生花いけバトル

目指せ、「花の甲子園」!

今村翔吾/著 文響社 2018.10 テコ913.6-イマ 1111573375

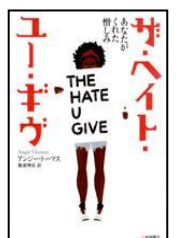
2人1組で5分以内に即興で花をいけ、そのパフォーマンスと作品の出来を対戦形式で競う「花いけバトル」。出場を目指してパートナー探しに奔走していた春乃は、大衆演劇を家業とする男子転校生・貴音と組もうとするのですが…。「生け花」のイメージを覆す躍動感あふれるバトルの描写に、思わず引き込まれる青春部活小説です。

◆死体が教えてくれたこと (14歳の世渡り術)

自由に、おおらかに、存分に生きよ

上野正彦/著 河出書房新社 2018.9 テコJ498-ウエ 1111564320

『死体は語る』で監察医という存在を世に知らしめた著者が、自身の人生を振り返りながら、命の大切さや生きることについて皆さんに語りかけます。「赤ひげ」だった父のこと、戦争体験、妻の死や鑑定してきた事件の数々、そしてイジメについて…。その言葉が深く心に響くのは、多くの死と向き合ってきた著者だからこそかもしれません。



◆ザ・ヘイト・ユー・ギヴ あなたがくれた憎しみ

わたしは撃たれた友の声になる

アンジー・トーマス/作 服部理佳/訳 岩崎書店 2018.3 テコJ933-トマ 1111500898

ギャングやドラッグがはびこる黒人街で、無抵抗だったのに白人警官に射殺された幼馴染みの黒人少年・カリル。しかも事実が歪められてしまい、警官は逮捕されなかった。その場に居合わせたスターは、悩み、報復に怯えながらも、真実を語るために立ち上がったのだが…。ポストグローブ・ホーンブック賞受賞！映画化もされました。

◆なぜ人と人は支え合うのか 「障害」から考える (ちくまプリマー新書)

人間とはいいものだ



渡辺一史/著 筑摩書房 2018.12 テコ369.27-ワタ 1111589704

「障害とは、個人にあるのではなく、社会の側にある」という考え方を知っていますか？駅のバリアフリー化のように、障害当事者からの声で得た成果を健常者も享受しています。そうした障害の概念や福祉の意味について、『こんな夜更けにバナナかよ』の著者が、自らの取材経験や「やまゆり園障害者殺傷事件」などを通して問い直します。

◆カーネーション・デイ

『いい先生』のことは、決してわすれたりしない



ジョン・デヴィッド・アンダーソン/著 久保陽子/訳 ほるぷ出版 2018.4 テコJ933-アン 1111512549
癌の治療のために卒業式を待たず学校を去った担任・ビクスビー先生に会いたくて、トファー、スティーブ、ブランドの3人組は学校をサボって病院に向かったのですが…。道中の数々のトラブルを乗り越えていく中で見えてくる、それぞれの抱える家庭の事情と先生への思い。そんな少年たちが計画した先生との「理想の最後の日」とは？

◆リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ

気持ちを形にできる魔法



こまつあや/著 講談社 2018.6 テコJ913-コマ 1111525215

日本の中学生生活に馴染もうと必死の沙弥はマレーシアからの帰国子女。ある日、図書委員の佐藤先輩に強引にギンコウに連れ出されて…。ギンコウとは銀行ではなくて吟行。タイトルはマレーシア語で「五七五七七」の意味。沙弥の詠むマレーシア語混じりの短歌の響きが心地よい、異文化理解と家族、友情、そして淡い恋の物語です。

◆ぼくがきみを殺すまで

言葉が死ねば、戦いが起こります



あさのあつこ/著 朝日新聞出版 2018.3 テコ913.6-アサ 1111492473

敵国ハラの捕虜となり翌朝の処刑を待つベル・エイドの「L」とエルシアが見張りに語るのは、ハラの友人ファルドと暮らした日々のこと…。淡々と描かれる、共存していた二つの民族がいつの間にか戦争に陥っていく恐ろしさと大人達の変節、そして少年兵達の絶望。果たしてファルドはエルシアを救えたのか？対となる「Kの欠片」も収録。

◆4歳の僕はこうしてアウシュビッツから生還した

これもいつかは過ぎていく [ガム・ゼ・ヤ・ヴォール]



マイケル・ボーンスタイン、デビー・ボーンスタイン・ホルンスタート/著 森内薫/訳 NHK出版 2018.4 テコ936-ホソ 1111511532
ゲッターやアウシュビッツでの体験について沈黙してきた著者は、当時の自分の写真がホロコースト否定論者に利用されていることを知り、真実を伝えなければと決心します。幼かったために曖昧だった記憶を関係者の証言や記録文献で補完して語られる過酷な状況。それをどうやって生き延びたのか？家族の強い絆に心を打たれます。

<「平成」を振り返る>

まもなく「平成」が終わり、新しい元号の時代が始まります。平成生まれの皆さんにとっては初めての改元ですね。これを機会に日本の歴史や制度を振り返ってみたり、あるいは他の国はどうかと比べてみたりしてみませんか？

★平成の日本

- 『10代に語る平成史』(岩波ジュニア新書) (後藤謙次/著 岩波書店 2018.7 テコJ210-コト 1111543984)
- 『日本という国 決定版』(よしみちパンセ) (小熊英二/著 新曜社 2018.5 テコJ210-オク 1111513241)
- 『図解でわかる 14歳から知る日本戦後政治史』
(インフォビジュアル研究所/著 太田出版 2018.10 テコ312.1-スカ 1111570480)
- 『天皇制ってなんだろう？あなたと考える民主主義からみた天皇制』(中学生の質問箱)
(宇都宮健児/著 平凡社 2018.12 テコJ313-ウツ 1111592764)

★外国の歴史

- <たどる>ヨーロッパ史シリーズ(岩波ジュニア新書) (池上俊一/著 岩波書店 2011.11~2019.1)
『情熱でたどるスペイン史』(テコJ236-イケ 1111604382)、『王様でたどるイギリス史』(テコJ288-イケ)、
『森と山と川でたどるドイツ史』(テコJ234-イケ 1111146189)、『お菓子でたどるフランス史』(テコJ383-イケ 11110761343)、
『パスタでたどるイタリア史』(テコJ383-イケ 1110293519)
- 『大統領でたどるアメリカの歴史』(岩波ジュニア新書) (明石和康/著 岩波書店 2012.9 テコJ312-アカ 1110516211)

